

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キャリアデザイン入門	PC		11301	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
前田 典子	必修	2	大学キャリアコンサルタント			

授業の到達目標

充実した学生生活を過ごすために自己のキャリアについて考えて行動できるようになることが到達目標である。具体的には①キャリア＝仕事（人生）のビジョンを言語化、文章化できるようになる。②キャリア＝仕事（人生）に関する考え方や希望を把握できるようになる。KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

授業の概要

生きていくうえで、いろいろな出会いがある。人、社会、仕事、そして自分。
出会いを中心に、これからのキャリア＝仕事（人生）を考えていく。

授業計画

- 1 学長による講義
- 2 適性検査の実施
- 3 人との出会い① 出会いのワーク①
- 4 人との出会い② 出会いのワーク②
- 5 人との出会い③ コミュニケーション演習
- 6 社会との出会い① 社会に出るとは？
- 7 社会との出会い② 子どもを取り巻く社会情勢
- 8 社会との出会い③ 業種・職種・雇用形態
- 9 適性検査の結果報告
- 10 キャリアセンター員による講義 本校のキャリア教育
- 11 学科教員による講義 将来のためにいまずべきこと
- 12 自分との出会い① ライフワークグラフ
- 13 自分との出会い② 現在の私は？未来の私は？
- 14 自分との出会い③ キャンパスライフプラン
- 15 まとめとテスト（作文）

授業の方法

講義（聴く）グループワーク・ペアワーク（話す）セルフワーク（考える）を中心に、ワークシートへの記入（書く）を行う。聴く・話す・考える・書くを中心に発表（プレゼンテーション）までつなげる。

準備学修

日ごろから自分の将来について考える習慣を身につける。
社会の出来事に関心をもつ。ニュースに触れる（新聞・TV・ネット）ことで自分はどう思うのか？問いかけ考える時間を毎日20分程度とる。

課題・評価方法、その他

課題・グループ・個人発表後は担当教員によるフィードバックを行う。

評価方法・平常点70％、定期試験30％

欠席について

規定に従う

テキスト

プリント配布

参考図書

随時紹介する

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
文学入門			11309	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

近代の文学作品を進んで読むことができるようにする。近代という時代が、過去とも現代ともつながった時空であることを理解し、自らの視野を広げる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

日本の文学に登場する異界について考察する。日本の古典も参考にしながら、近代・現代作家の作品を講読したい。また、近代の文学が、現代の映像文化へどのような影響をあたえているかも、加えて考察する。神々や妖怪ら、異界のもの達に託された日本文化の一面にも注目する。

授業計画

- 1 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その1)
- 2 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その2)
- 3 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その3)
- 4 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その4)
- 5 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その1)
- 6 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その2)
- 7 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その3)
- 8 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その4)
- 9 萩原朔太郎「猫町」と「猫の恩返し」(その1)
- 10 萩原朔太郎「猫町」と「猫の恩返し」(その2)
- 11 中島敦「悟浄歎異」と「バケモノの子」
- 12 中島敦「悟浄出世」と「バケモノの子」
- 13 中島敦「李陵」と「バケモノの子」
- 14 中島敦「名人伝」と「バケモノの子」
- 15 佐藤春夫「西班牙犬の家」と「耳をすませば」(その1)

授業の方法

作品講読と関係資料映像の鑑賞が中心となる。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。

平常点70％、定期試験30％

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて随時紹介し、プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

留意事項

授業中に鑑賞する映像は、文学作品を理解するためのものである。そのため、授業中では一部のみしか鑑賞しない場合もある。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本文化史			11353	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2	私立中学高等学校教員(科目「社会」)			

授業の到達目標

日本史の概略を理解する。日本の伝統行事を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

授業の概要

時代ごとに歴史の重要事項を確認する。さらにその時代の文化に注目し、その文化を題材として取り扱った現代の文学・文化作品を鑑賞する。

授業計画

- 1 年中行事 その壱
(正月について)
- 2 年中行事 その弐
(節分・3月3日・5月5日・衣替え・賀茂(葵)祭)
- 3 年中行事 その参
(夏祭り・天神祭・祇園祭・ねぶた祭り・竿灯祭・七夕祭・花笠祭)
- 4 年中行事 その四
(7月7日・盆・風祭・十五夜・十三夜・重陽の節会・神無月・七五三)
- 5 神々の歴史
『古事記』と荻原規子『空色勾玉』を読む
- 6 縄文時代・弥生時代
たつみや章『月神の統べる森で』を読む
- 7 邪馬台国・古墳時代
森嶋外『生田川』を読む
- 8 邪馬台国のあった頃の中国(魏)
吉川英治『三国志』を読む。
- 9 飛鳥時代
池田理代子『聖徳太子』を読む
- 10 大化の改新
里中満智子『天上の虹』を読む
- 11 奈良時代
手塚治虫『火の鳥』を読む
- 12 平安時代
大和和紀『あさきゆめみし』を読む
清少納言『枕草子』を読む
- 13 鎌倉時代
小泉八雲『耳なし芳一』を読む

- 14 戦国時代
遠藤周作『叛逆』を読む
- 15 江戸時代
菊池寛『忠直卿行状記』を読む

授業の方法

講義中心の授業である。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
簿記会計学			11357	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
埴岡 忠清	選択	2	税理士			

授業の到達目標

この授業は、簿記の初学者に対し、簿記の基本概念、計算原理、作成技術などを説明する。到達目標は、日本商工会議所簿記検定3級の基本部分を習得することである。さらに、この授業は、自らを律して積極的に受講することにより、全世界で使用されている簿記の知識をより深く理解することにより、「KAISEIパーソナリティー」のI（知性）とIn（国際性）とA（自律）を身につけてもらうことを目標とする。

授業の概要

簿記とは、お金の計算を会計帳簿に記入することである。授業は、日々の取引がどのように記録されているのか、また決算においてどのような手続きが行われているのかを説明する。簿記を修得するためには、解説を聞くだけでなく、自ら電卓を持ち、問題の反復練習が重要になる。本授業では、授業で学んだことを実践的に確認するために、具体的な記帳練習を行いながら講義する。

授業計画

- 1 簿記の基礎
- 2 仕訳①～商品売買
- 3 仕訳②～現金・当座預金・当座借越・小口現金
- 4 仕訳③～手形
- 5 仕訳④～貸付金・借入金他・有価証券
- 6 仕訳⑤～その他の債権債務
- 7 仕訳⑥～消耗品の処理・固定資産と減価償却
- 8 仕訳⑦～租税公課と資本金
- 9 仕訳⑧～費用・収益の繰延べと見越し
- 10 決算①～帳簿への記入
- 11 決算②～試算表の作成
- 12 決算③～伝票制度
- 13 決算④～精算表と財務諸表
- 14 決算⑤～帳簿の締め切り
- 15 まとめと確認

授業の方法

講義と演習問題を多く取り入れて授業をする。

準備学修

授業の始まる前には、必ず予習をすること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

「スッキリわかる 日商簿記3級」 TAC出版

留意事項

電卓は必要なので持参すること。本講義は、全国大学実務教育協会「情報処理士」の認定に必要な科目である。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
女性と社会			11517	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

ジェンダーの視点から現代社会の問題を読み解くことができる。国内外の社会事象とそこに生きる女性について、総合的にとらえ、自分の意見をもつことができる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）、A（自律）やIn（国際性）を考える。

授業の概要

日本だけでなく海外も含めた女性に関する諸問題について、様々な研究分野の蓄積を学ぶ。社会的文化的性差・性別（ジェンダー）のもたらす現実や課題は、どのようにとらえられ解決されているか、解説する。そして、男女共同参画社会、少子高齢社会、国際化・情報化社会と女性の生き方について考える。

授業計画

- 1 文化と歴史の中の女性
- 2 女性のライフコース
- 3 女性と教育
- 4 女性と労働・女性のキャリア形成
- 5 女性と結婚・離婚
- 6 女性と出産・子育て
- 7 ワークライフバランス
- 8 女性と暴力
- 9 女性とメディア・表現
- 10 女性と階層
- 11 女性と加齢
- 12 女性と病
- 13 女性とケア
- 14 女性と社会参画・社会政策
- 15 女性と国際社会

授業の方法

講義に加えてプレゼンテーションやディスカッションをとり入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。平常点30％、定期試験70％

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

使用しない。

参考図書

内閣府男女共同参画局『男女共同参画白書』
授業中に必要に応じて指示する。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語表現法	ET		11401	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

敬語をつかい、文章を書けるようにする。また、敬語をつかい、自己表現ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を養う。

授業の概要

言葉を公に使用するということは、社会的責任を負うということでもある。授業では、社会人として必要な日本語表現の常識を学ぶ。注意深く、日本語に接する訓練をする。

授業計画

- 1 聞く力を養う。
質問力・雑談力を高める。
- 2 間違いやすい「敬語」
尊敬語と謙譲語を学ぶ
- 3 「敬語の種類」
- 4 「日常生活と言葉づかい」(1)
- 5 「日常生活と言葉づかい」(2)
- 6 「ビジネス社会における敬語(1)」
- 7 「ビジネス社会における敬語(2)」
- 8 「さまざまな文章」「文章の構成」
- 9 「原稿用紙の用法」
- 10 「評論文」の書き方。
- 11 「説明文と推敲の方法」
- 12 「手紙とはがき(1)」
- 13 「手紙とはがき(2)」
- 14 「ビジネス文書」「修辭法と慣用句」
- 15 「就職活動と書類」「さまざまな熟語」
- 16 まとめとテスト

授業の方法

演習中心の授業である。新聞投稿などを通じて、社会と繋がっていく準備をする。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。平常点70％、定期試験30％

欠席について

小テストやノートの提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト

西尾宣明編『日本語表現法』（樹村房）

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項

演習が中心の授業となる。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語表現法	PC		11401	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
	必修	2				

授業の到達目標

日本語の特質を理解するとともに、言葉の使い方・話し方・文章の書き方等、社会生活の中で必要とされる基礎的な国語力を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

基本的な日本語の知識や文章の書き方を修得するために、実践的な演習を取り入れた講義を行う。また、実用的な挨拶・自己紹介等における話し言葉の表現法についても学ぶ。言葉に対する感性を磨くために、詩や名文等の学修を取り入れていく。

授業計画

- 1 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、美しい日本語
- 2 国語の力(読む・調べる・書く)
- 3 話し方の基本
- 4 挨拶と敬語
- 5 敬語の使い方、自己紹介の仕方
- 6 自己紹介
- 7 文字の書き方と表記
- 8 文章の書き方①
- 9 文章の書き方②
- 10 文章の書き方③
- 11 文章の書き方④
- 12 文章の書き方⑤
- 13 書写①
- 14 書写②
- 15 日本語表現の振り返り

授業の方法

書く活動や発表を多く取り入れる。

準備学修

テキストの指定ページを予習し、学修内容を把握しておくこと。詳細については、Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①小テストは、講義の中でフィードバックを行う。
- ②評価方法は平常点30%、定期試験70%とする。

欠席について

欠席は3点減点し、遅刻は1点減点する。

テキスト

田上貞一郎『保育者になるための国語表現』萌文書林

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度（準備と提出物含む）を重視する。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語文章構成法			11405	II	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

他人の意見を理解し、それを要約する力をつける。また、客観的資料をもとに、自分の意見を述べる力をつける。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

授業の概要

簡潔で的確な日本語表現の習得を目指す。表現力向上のために必要な基礎的知識を、演習のなかで体得していく。与えられた課題に対して、自分で文章を作り、それを推敲していく演習形式の授業である。読み手を意識した文章を書く練習をするため、書き上げた文章は発表する。

授業計画

- 1 <評論文> (1) 感想文と評論文とはどう違うのか。
- 2 <評論文> (2) アウトラインのたてかたを学ぶ。
- 3 <評論文> (3) 推敲の仕方を学ぶ。
- 4 <評論文> (4) 書評を書く。図書・雑誌の探し方を学ぶ。
- 5 <評論文> (5) 引用の規則を学ぶ。
- 6 <新聞投稿> 検索能力を養う。
- 7 <意見文> 他説・自説・証明といった三段構成の方法を学ぶ。
- 8 <意見文・説得文> 反論の仕方を学ぶ。予想される反論をあげ、それに反論する。
- 9 <意見文・説得文> 結論・本論・結論の三段構成の方法を学ぶ。
- 10 <小説> 語り手の位置を学ぶ。
- 11 <小説> テーマにそった短編小説を書く。
- 12 <エントリーシート> キャッチコピーを学ぶ。接近法・強調法・暗示法などを学ぶ。
- 13 <エントリーシート> ネーミングコピーの作り方を学ぶ。
- 14 <エントリーシート> 標語の作り方を学ぶ。ブレンライティング法を学ぶ。
- 15 <随筆> を書く

授業の方法

演習が中心の授業となる。コンピューター教室で、情報を検索しながら文章を作り、それを推敲していく。新聞投稿などとおして、書き上げた文章は発表していく。社会の一員としての自分の位置を理解していく。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回課題を与え、その提出を求める。提出物は教員が評価し、次回にフィードバックする。平常点70%、定期試験に変わるレポート30%

欠席について

課題の提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト

必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項

演習が中心の授業となる。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	a		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務/企業経営			

授業の到達目標

演習のテーマは、「ツーリズム&ホスピタリティ産業におけるマネジメント」である。製品特性である無形性、変動性、不可分性、消滅性を克服するためにどのような事業戦略が必要かを考察する。ツーリズム&ホスピタリティ産業において課題を抽出し、解決の糸口を導きだす手法を身につけるのが目標である。さらに、労働生産性の向上とホスピタリティの関係や、各業界における市場特性を理解する。PBLで考える力、プレゼンテーション力を磨く。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

ツーリズム&ホスピタリティ産業でのおもてなしやホスピタリティ精神の価値を学ぶ。さらに、労働生産性に焦点を当て、どのように向上させ、成果のあるマネジメントが可能であるかを考える。特に古民家再生による宿泊業に焦点を当てホスピタリティの価値、労働生産性向上を踏まえ地域活性化の現状を理解する。演習では、ツーリズム&ホスピタリティ産業の現場を訪問し、実務担当者との意見交換等から問題の核心に迫る。

授業計画

- 1 演習の概要説明
- 2 地域振興と古民家再生を考える(1)
- 3 地域振興と古民家再生を考える(2)
- 4 地域と観光の市場環境(マクロ環境)
- 5 ビジネスフレームワーク(5 focusの理解)
- 6 ビジネスフレームワーク(STPの理解)
- 7 従業員エンゲージメントと労働生産性
- 8 組織論(多元型と進化型)
- 9 フィールドワーク準備
- 10 フィールドワーク準備
- 11 フィールドワーク準備
- 12 フィールドワーク実施
- 13 フィールドワークのまとめ
- 14 フィールドワークのまとめ
- 15 フィールドワークのまとめ

授業の方法

PBL (project Based Learning) によるフィールドワークの実践。座

学と古民家再生の宿泊事業案件の調査する。レポートやパワーポイントを使用しディスカッションする。

準備学修

観光業界紙での事前情報収集などで準備する。

課題・評価方法、その他

事前学習課題50%

発表50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

小笠原喜康 (2002) 『大学生のためのレポート・論文術』 講談社
*このテキストは演習Ⅲ・Ⅳでも使用する。

参考図書

内藤耕『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社
内藤耕『サービス産業 生産性向上入門』日刊工業新聞
Kotler『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
M.E.Poter『競争の戦略』ダイヤモンド社
Jay B. Barney『企業戦略論』ダイヤモンド社

留意事項

事前学習の課題を第1回講義日に提出する。
演習は一人一人が積極的に参加が必要であり、学外でのフィールドワークがあります。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	b		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 個人課題の研究発表・討論・講評
- 3 個人課題の研究発表・討論・講評
- 4 個人課題の研究発表・討論・講評
- 5 個人課題の研究発表・討論・講評
- 6 個人課題の研究発表・討論・講評
- 7 個人課題の研究発表・討論・講評
- 8 個人課題の研究発表・討論・講評
- 9 個人課題の研究発表・討論・講評
- 10 個人課題の研究発表・討論・講評
- 11 個人課題の研究発表・討論・講評
- 12 個人課題の研究発表・討論・講評
- 13 個人課題の研究発表・討論・講評
- 14 個人課題の研究発表・討論・講評
- 15 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	b		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれてる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

- 1 個人課題の研究発表・討論・講評
- 2 個人課題の研究発表・討論・講評
- 3 個人課題の研究発表・討論・講評
- 4 個人課題の研究発表・討論・講評
- 5 個人課題の研究発表・討論・講評
- 6 個人課題の研究発表・討論・講評
- 7 個人課題の研究発表・討論・講評
- 8 個人課題の研究発表・討論・講評
- 9 個人課題の研究発表・討論・講評
- 10 個人課題の研究発表・討論・講評
- 11 個人課題の研究発表・討論・講評
- 12 個人課題の研究発表・討論・講評
- 13 個人課題の研究発表・討論・講評
- 14 個人課題の研究発表・討論・講評
- 15 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	c		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	必修	2				

授業の到達目標

前期に学んだ内容を基礎に、学生の関心の高い英米の児童文学作品の原書を読み、英文の読解力を向上させる。また選んだ作品についてのテーマを考察し、考えをまとめて発表する力を養う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、In（国際性）を養う。

授業の概要

前期に引き続き、児童文学の原書を読み、英語力を向上させるとともに、文学の鑑賞力を養う。また、読解した作品のアダプテーション作品を鑑賞し、それらの脚色法等について分析する。さらに、読解した2作品以外にも、学生が関心のある文学作品とそれらのアダプテーション作品についても調査、考察する。最後に、各自の考察を発表する。

授業計画

- 1 イントロダクション
- 2 "Alice's Adventures in Wonderland" Chapter 1
- 3 "Alice's Adventures in Wonderland" Chapter 1
- 4 "Alice's Adventures in Wonderland" Chapter 2
- 5 "Alice's Adventures in Wonderland" Chapter 3
- 6 "Alice's Adventures in Wonderland" Chapter 4
- 7 "Alice's Adventures in Wonderland" Chapter 5
- 8 "Alice's Adventures in Wonderland" Chapter 6
- 9 "Alice's Adventures in Wonderland" Chapter 7
- 10 "Alice's Adventures in Wonderland" Chapter 8 & 9
- 11 "Alice's Adventures in Wonderland" Chapter 10 & 11
- 12 "Alice's Adventures in Wonderland" Chapter 12
- 13 "Alice's Adventures in Wonderland" のまとめ
アダプテーション作品の鑑賞と分析
- 14 "Alice's Adventures in Wonderland" についての考察
アダプテーション作品の鑑賞と分析
Review Quiz
- 15 "Alice's Adventures in Wonderland" の内容についての発表

授業の方法

講義後、各自が原書講読をし、授業取り上げた作品について調べて

考察後、まとめて発表する。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点（発表含む）40％、小テスト 20％、レポート 40％
課題、小テスト、発表のフィードバックは授業中に行う。レポートは個別にフィードバックする。

欠席について

規定に従う。

テキスト

Lewis Carroll/ 丸橋良雄・伊藤佳代子 『不思議の国のアリス』英光社
その他は授業中に指示する。
ハンドアウトを使用する。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業は発表形式で行いますので、積極的に参加すること。
予習と復習が必須です。
授業には必ず辞書を持参すること。

教員連絡先

miyazoe@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務			

授業の到達目標

観光関連科目のまとめとしていく。ホスピタリティ産業における戦略的マーケティングを理解し、ゼミ生個別のテーマに対してより深く研究を進めていく。個人テーマは、観光領域でマネジメントとマーケティングをキーワードとして設定する。テーマ毎に概要がまとめられることを到達目標としていく。このクラスは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

卒業研究を前提に個別のテーマに取り組む。個人研究を中心に進捗状況を発表し、他のゼミ生と意見交換をする。

授業計画

- 1 研究の進め方
- 2 研究テーマについて発表
- 3 卒業研究の書き方(研究計画について)
- 4 卒業研究の書き方(参考文献・引用文献)
- 5 個人発表と質疑応答
- 6 個人発表と質疑応答
- 7 個人発表と質疑応答
- 8 個人発表と質疑応答
- 9 個人発表と質疑応答
- 10 個人発表と質疑応答
- 11 個人発表と質疑応答
- 12 個人発表と質疑応答
- 13 研究計画書の発表
- 14 研究計画書の発表
- 15 まとめ

授業の方法

発表とディスカッションを中心に行う。

準備学修

テーマ毎に参考図書を紹介するので読んでレポートすること。

課題・評価方法、その他

課題への取り組み、レポートの評価、発表内容などを総合的に成績評価する。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

テキストは3年次購入した研究論文の書き方を使用する。

参考図書

研究テーマ別に紹介する。
内藤耕（2015）『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社
内藤耕『サービス産業生産性向上入門』日刊工業新聞
Kotler（2003）『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
M.E.Poter（2012）『競争の戦略』ダイヤモンド社
Jay B. Barney（2011）『企業戦略論』ダイヤモンド社

留意事項

個別の研究テーマに取り組めます。積極的に研究課題に取り組むこと。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

- 1 個人課題の研究発表・討論・講評
- 2 個人課題の研究発表・討論・講評
- 3 個人課題の研究発表・討論・講評
- 4 個人課題の研究発表・討論・講評
- 5 個人課題の研究発表・討論・講評
- 6 個人課題の研究発表・討論・講評
- 7 個人課題の研究発表・討論・講評
- 8 個人課題の研究発表・討論・講評
- 9 個人課題の研究発表・討論・講評
- 10 個人課題の研究発表・討論・講評
- 11 個人課題の研究発表・討論・講評
- 12 個人課題の研究発表・討論・講評
- 13 個人課題の研究発表・討論・講評
- 14 個人課題の研究発表・討論・講評
- 15 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	b		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれてる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

- 1 個人課題の研究発表・討論・講評
- 2 個人課題の研究発表・討論・講評
- 3 個人課題の研究発表・討論・講評
- 4 個人課題の研究発表・討論・講評
- 5 個人課題の研究発表・討論・講評
- 6 個人課題の研究発表・討論・講評
- 7 個人課題の研究発表・討論・講評
- 8 個人課題の研究発表・討論・講評
- 9 個人課題の研究発表・討論・講評
- 10 個人課題の研究発表・討論・講評
- 11 個人課題の研究発表・討論・講評
- 12 個人課題の研究発表・討論・講評
- 13 個人課題の研究発表・討論・講評
- 14 個人課題の研究発表・討論・講評
- 15 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	c		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	必修	2				

授業の到達目標

各自が定めたテーマについて調査をし、参考文献や資料を読み裏付けとなる根拠やデータを明確にして、論理的に文章として表現し、発表する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、In（国際性）を養う。

授業の概要

演習Ⅰ～Ⅲで学んだ内容を基礎として、各自のテーマについて、調査、研究を行う。授業では、研究のための資料、データ、先行論文等を用意して、ディスカッションと発表を行うので、授業準備を万全に行うことが必須である。

授業計画

- 1 イントロダクション
卒業研究の発表をする。
- 2 卒業研究の発表とディスカッション
- 3 卒業研究の発表とディスカッション
- 4 卒業研究の発表とディスカッション
- 5 卒業研究の発表とディスカッション
- 6 卒業研究の発表とディスカッション
- 7 卒業研究の発表とディスカッション
- 8 卒業研究の発表とディスカッション
- 9 卒業研究の発表とディスカッション
- 10 卒業研究の発表とディスカッション
- 11 卒業研究の発表とディスカッション
- 12 卒業研究の発表とディスカッション
- 13 卒業研究の発表とディスカッション
- 14 総まとめ
口頭試問について
- 15 卒業研究の口頭試問

授業の方法

各自が選んだテーマについて、書物、文献、論文などの読解、および資料の収集を行う。毎週の成果について、授業において発表とディスカッションを行う。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点 20%、発表 50%、レポート 30%

欠席について

規定に従う。

テキスト

必要に応じて配布する。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業は積極的に参加すること。授業には必ず辞書を持参すること。

教員連絡先

miyazoe@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈基幹基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本文化論			13273	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

日本文化、特に古典芸能を理解し、その概要を語れるようになる。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）とI（知性）を養う。

授業の概要

芸能は地域に根差し発展する。まずは、各芸能を、身近なものとして考察したい。そして、現代において、各芸能がどのような発展をしているかを、ときに映像資料を用いて確認する。随時関西で上演される芸能を紹介するので、受講中に実際に劇場に足を運んでもらいたい。

授業計画

- 落語 その壱 「寿限無」「芝浜」
- 落語 その弐 英語落語の可能性・「鷺取り」
- 落語 その参 創作落語：グリム童話「死神の名づけ親」と落語「死神」
- 落語 その四 女性落語家の活躍 落語「花嫁修業」
- 着物の基礎知識 その壱 浴衣の着付け
- 着物の基礎知識 その弐 帯結び
- 歌舞伎 その壱 現代歌舞伎：シネマ歌舞伎の可能性「阿弓流為」
- 歌舞伎 その弐 海外で最も人気の演目「連獅子」・「勧進帳」
- 歌舞伎 その参 日本作品を海外へ：和事歌舞伎の新演出 故中村勘三郎の「夏祭浪花鑑」ニューヨーク公演
- 歌舞伎 その四 海外作品を日本へ：NINAGAWA歌舞伎シェークスピア「十二夜」
- 狂言 「附子」大蔵流茂山狂言と和泉流野村狂言
- 能 その壱 能「鉄輪」と野村萬斎主演映画「陰陽師」と丑の刻詣り
- 能 その弐 能「鉄輪」における、シテ方・ワキ方・狂言方
- 文楽 その壱 「曽根崎心中」
- 文楽 その弐 三谷幸喜による「其成礼心中」

授業の方法

講義が中心となるが、その他に実際に古典芸能を鑑賞する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回、授業内小レポートを提出する。このレポートは、次の週に教員が評価して返却する。平常点70%、定期試験30%

欠席について

毎回、授業内小レポートを提出するため、欠席の場合はこのレポート点も減点となる。

テキスト

随時紹介する

参考図書

随時紹介する

留意事項

実際に古典芸能に触れる時間を持つ。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
コミュニケーションと文化			13419	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	2				

授業の到達目標

ことばの意味と文化の関係、様々なかたちで伝えられることばから読み取ることができるその意味や文化を学び、ことばの意味と文化の関係についての関心を高める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

私たち人間はこれまでことばと共に進化し、文化を形成してきた。つまり私たちの生活や文化からことばを切り離すことは出来ない。私たちが普段当たり前に目にし、耳にしていることばの意味を探りそこにある文化について共に考えたい。また、同時に異文化理解へのアプローチの一端として、日英の比較を元に文化の類似点や相違点をことばの側面から探り、他文化への関心を深めたい。

授業計画

- イントロダクション
- 文化について
- 言語とは何か
- コミュニケーションの性質と要素
- 言語コミュニケーション
- 非言語コミュニケーション
- 振り返り
- グローバル化とメディア①
- グローバル化とメディア②
- 異文化交流の意味
- 差異とアイデンティティ
- 多文化共生①
- 多文化共生②
- 振り返り
- 試験

授業の方法

講義形式をとる。また、毎回テーマにあわせた質問事項を提示し、それに対する回答を必須とする。それを元に共に考え、意見交換をする。積極的な授業への参加が求められる。

準備学修

事前学習では、授業の最後に出題される課題について考えてくこと。また事後学習では、テキストや配布資料を元に、授業内容を必ず復習すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき出席点より4点減点する。遅刻・早退も減点対象。

テキスト

池田 理知子・埴幸枝 編著『グローバル社会における異文化コミュニケーション―身近な「異」から考える』（三修社）
適宜ハンドアウトを配布する。

参考図書

授業内で適宜紹介する

留意事項

クラスへの積極的参加、予習・復習が求められる。

教員連絡先

saeki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童文学	ET		13501	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子／箕野 聡子	選択	2	私立中学高等学校教員（科目「社会」）（箕野） 私立中学高等学校教員（科目「英語」）（宮副）			

授業の到達目標

初等国語の一貫として、児童文学を学ぶことにより、文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。（箕野）
すぐれた児童文学は普遍的テーマを有しており、子どもだけでなく大人にも深い感動を与えてくれる。海外の代表的な児童文学を鑑賞することにより、様々な視点から文学を読解する力を養うことを目的とする。KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、In（国際性）を養う。（宮副）

授業の概要

日本の近現代児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、発表当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。児童文学がそのような観念から脱し、子どもの世界を獲得していく様子を考察する。（箕野）
英米の児童文学の歴史を学びながら英米の代表的な児童文学作品について考察する。また英米以外では、フランスの1作品を鑑賞する。（宮副）

授業計画

- 1 巖谷小波「日本昔噺其一 桃太郎」
- 2 浜田広介「泣いた赤鬼」
- 3 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」
- 4 有島武郎「一房の葡萄」
- 5 与謝野晶子「きんぎょのおつかい」
- 6 岡田淳「竜退治の騎士になる方法」
- 7 日本の現代児童文学について
- 8 英米の児童文学の歴史
- 9 ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』とナーサリーライム
- 10 R.L.スティーブンソン『宝島』
- 11 L.F.ボーム『オズの魔法使い』
- 12 L.M.オルコット『若草物語』
- 13 ペアトリクス・ポター『ピーターラビットのおはなし』と代表的な絵本
- 14 アントワヌ・ド・サン＝テグジュペリ『星の王子様』

15 総まとめとReview Quiz

授業の方法

講義中心の授業である。必要に応じて映像鑑賞も行う。（箕野）
演習形式の授業である。学生の担当を決めて発表、およびグループディスカッションにより授業をすすめる。（宮副）

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%で評価する。また、毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。（箕野）
平常点15%、Review Quiz 20%、発表、および提出物 30%、レポート 35%（宮副）

欠席について

規定に従う。

テキスト

随時、プリントを配布する。（箕野）
『英米児童文学のベストセラー40』成瀬俊一編著 ミネルヴァ書房、および、プリントを配布する。（宮副）

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

教員連絡先

mino@kasei.ac.jp
miyazoe@kasei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ（海外）			13967	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	選択	2				

授業の到達目標

海外で就業体験をすることで、自国の文化のみならず他国の文化をも理解し、異文化との交流を通してグローバルな精神を培い、相手の考えに耳を傾け、自分の意見を発信しながらコミュニケーション能力を高める。実践的な活動を通し、将来の職業選択に備え自らの適性・能力を知る機会とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、In（国際性）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

興味のある学生は登録のうえ、選択するプログラムをメールで連絡すること。
【アシスタント・ティーチャープログラム】
カリフォルニア州トーランス市にある公立小学校で、専任教員のアシスタントとして子どもたちの指導に携わる。
・対象学科・学年：ET学科、PC学科2年次生以上
・期間：春季休暇中10日間以上
・委託機関：ライトハウス
【イベントコース：まつりインハワイ】
「まつりインハワイ」の運営業務、「旅行管理主責任・取得研修」プログラム。
・対象学科・学年：ET学科2年次生以上
・期間：6月中旬の1週間と国内における3回の事前研修
・委託機関：近畿日本ツーリスト
【観光ビジネスコース】
ハワイ州の観光業、ウェディング業、教育業などで、インターンシップを体験する。
・対象学科・学年：ET学科2年次生以上
・期間：夏季休暇もしくは春季休暇を利用して3～4週間
・委託機関：一般社団法人日本国際人材育成協会、他米国NPO法人

授業計画

- 1 事前学習
- 2 事前学習
- 3 現地実習
- 4 現地実習
- 5 現地実習
- 6 現地実習
- 7 現地実習

- 8 現地実習
- 9 現地実習
- 10 現地実習
- 11 現地実習
- 12 現地実習
- 13 現地実習
- 14 現地実習
- 15 ポートフォリオの提出（日報、レポートなど）及び発表

授業の方法

各自に設定されたプログラムに従うインターンシップ

準備学修

原則としてTOEIC400点以上を取得し、プログラム参加に必要な最低限の英語力をつけておくこと。

課題・評価方法、その他

課題は委託機関の基本方針に基づいて実施され、詳細は委託機関及び本学による。
各々のインターンシップは原則以下のプログラムによって構成される。
① 2～3回の事前学習（英語研修や実習準備など）
② 現地実習
③ ポートフォリオの提出（日報、レポートなど）と発表

欠席について

テキスト

教員連絡先

saeki@kasei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
比較文化論			13830	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

世界情勢を的確に把握し、広い視野、幅広い知識と洞察力を持って積極的に行動できる人材が求められている。異文化を理解し、自文化が発信できる人材の育成を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を身につける。

授業の概要

本授業では、日本と日本を取り巻くグローバル社会の文化を比較し、歴史的・風土的・地政学的観点から、自文化と異文化に対する幅広い知識と洞察力を養う。同時にそれを活用して、自身が企画した文化比較についてプレゼンテーションを行い、自己発信力を育成する。

授業計画

- 身近にある異文化理解 その1
〈人魚〉をテーマに、アンデルセン(ヨーロッパ)・ディズニー(アメリカ)・小川未明(日本)の表現の違いを考察する。
- 身近にある異文化理解 その2
〈MANGA〉をテーマに、日本の漫画の発展と世界進出について考察する。
- 身近にある異文化理解 その3
〈宝塚歌劇〉をテーマに、宝塚歌劇におけるフランスのレビューの影響を考察する。
- 身近にある異文化理解 その4
〈人形〉を題材に、日本、台湾、インドネシアなど、各国の人形文化がどのように発展していったかを考察する。
- プレゼンテーション(1)「身近にある異文化理解」
- プレゼンテーション(2)「身近にある異文化理解」
- プレゼンテーション(3)「身近にある異文化理解」
- 歴史的・風土的・地政学的比較文化 その1
ブラジル移民。政府の政策と神戸港の対応。
- 歴史的・風土的・地政学的比較文化 その2
ベラルーシ。原子力発電所事故影響からの立ち直り。日本との繋がり。
- 歴史的・風土的・地政学的比較文化 その3
パラオ。南洋諸島と戦前の日本委任統治
- 歴史的・風土的・地政学的比較文化 その4

小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)がみた日本・神戸

- プレゼンテーション(4)「歴史的・風土的・地政学的比較文化」
- プレゼンテーション(5)「歴史的・風土的・地政学的比較文化」
- プレゼンテーション(6)「歴史的・風土的・地政学的比較文化」
- まとめと質疑応答

授業の方法

教員の講義と学生のプレゼンテーションとによる参加型授業

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回ノートの提出を義務づける。提出されたノートは、教員が指導してフィードバックする。出席状況(30%)、ノート評価(30%)、発表(20%)、レポート(20%)により評価する。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英検 2 級			13848	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
和泉 有香	選択	1	著書執筆、専門学校講師			

授業の到達目標

英検 2 級合格を目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

英検 2 級過去問を授業内で解きながら傾向に応じた対策をしつつ、英語力を身につける。

授業計画

- ガイダンス、2020年第3回大問2、Listening Part 1
- 2020年第3回大問3、Listening Part 2
- 2021年第3回大問1、4、Listening Part 1
- 2021年第1回大問2、Listening Part 1
- 2021年第1回大問3、Listening Part 2
- 2021年第1回大問1、4、Listening Part 2
- 2021年第2回大問2、Listening Part 1
- 2021年第2回大問3、Listening Part 1
- 2021年第2回大問1、4、Listening Part 2
- 2020年第2回大問2、Listening Part 1
- 2020年第2回大問3、Listening Part 2
- 2020年第2回大問1、4、Listening Part 2
- 2020年第1回大問1～3、二次試験対策
- 2020年第1回Listening Part 1～2、二次試験対策
- 総まとめ、復習、期末テスト

授業の方法

英検 2 級 1 次試験で問われる語彙・読解・リスニング・ライティングの各分野に必要な力と、二次試験で問われるスピーキング力を身につけるため、過去に出題された問題を大量演習する。また正解の導き方や得点につながる書き方・答え方を身につける。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

2022年度版英検 2 級過去問レビュー（河合出版）購入に関しては初回授業で案内する。

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・テキスト付属CDも用いて確実に復習すること。・英和辞書（紙版、電子辞書いずれでも可）を必ず持参すること。

教員連絡先

izumi@kaisei.ac.jp

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
宿泊事業論			13835	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊業実務/企業経営			

授業の到達目標

観光立国を目指した国家戦略は訪日外客を増加させた。その結果、宿泊業界に多大な影響を与えた。宿泊業はホテル、旅館の枠を超え民泊という新たなジャンルに発展している。本講座は旅館、ホテルの歴史や経営・運営に関して学修する。グローバル時代における宿泊産業の基礎を理解し、宿泊マネジメント基礎的知識やグローバル化する宿泊産業の収益構造や組織運営を理解する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのIn（国際性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

宿の歴史から始まる本講座は、日本の宿泊と欧米におけるホテル業の歴史を学ぶ。次に、産業としてのホテル業に焦点を当て現代ホテル産業の組織及び運営・経営方式などを理解する。理解を深める補助教材として日本ホテル協会監修の研修資料を活用する。宿泊産業の基礎講座である。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 ホテル産業史Ⅰ
- 3 ホテル産業史Ⅱ
- 4 ホテル産業史Ⅲ
- 5 宿泊産業の市場特性
- 6 ホテルの組織と役割
- 7 客室事業・基本業務
- 8 客室事業・組織とサービス
- 9 客室事業・価格戦略
- 10 料飲事業
- 11 バンケット事業
- 12 プライダル事業
- 13 ケータリング事業
- 14 購買とFBCC
- 15 まとめ

授業の方法

テキストとパワーポイントを使い講義をする。受講生はノートを取ること。また、ディスカッション等のグループワークも取り入れる。

準備学修

図書館で購読されている「ホテルレストラン」「月刊ホテル旅館」を読むこと。事前にテキストを一読すること。

課題・評価方法、その他

課題30%、総括試験70%

欠席について

大学の規定通りとする。

テキスト

鈴木博、大庭祺一郎（2007）『基本ホテル経営教本』柴田書店

参考図書

適宜紹介
オータパブリケーション『ホテルレストラン』
柴田書店『ホテル旅館』

留意事項

観光における中心的な産業は、宿泊業である。ツーリズムを学ぶ上で必要不可欠である。合わせて、観光マーケティング論を履修すること。事前にテキストを予習すること。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
神戸学			13841	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

地元神戸の成り立ちを知り、その特徴がどのように文化的資源として活用されているかを考える。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

神戸を舞台とした文学作品に触れながら、神戸文化の特徴を学ぶ。観光資源としての価値に注目するため、各自神戸の町に出てレポートし、発表を行う。

授業計画

- 1 神戸海岸通りと旧居留地
陳舜臣「枯草の根」を読み、神戸居留地の歴史を振り返る。
- 2 神戸の海岸線
村上春樹「ノルウェイの森」・「5月の海岸線」を読み、神戸の海岸線埋め立てによる開発を考察する
- 3 雑居地文化と異人館通り
宮本輝「花の降る午後」を読む。雑居地に暮らし、戦争を乗り越えた外国人たちの文化を考察する。神戸のスイーツやパン、洋食文化にも触れる。
- 4 神戸モダニズム
稲垣足穂「星を造る人」を読み、トーアロード周辺から発信された、神戸モダニズムについて考察する。
- 5 他地域からの視点
堀辰雄「旅の絵」を読み、東京からのお客様である堀辰雄を案内した竹中郁のエッセイにも触れる。外から見た神戸文化について考察する
- 6 ミステリー発祥の地としての神戸
横溝正史「虹のある風景」を読み、新開地出身のミステリー作家が描く労働者の町神戸の文化発展を考察する。
- 7 川崎造船所と神戸の町
久坂葉子「ドミノのお告げ」を読む。カワサキワールド・神戸海洋博物館にも触れ、神戸の経済を支えて来た川崎造船所の神戸経済への影響力を考察する。
- 8 鈴木商店を支えた女性
玉岡かおる「お家さん」を読む。かつて世界を掴んだ神戸の個人商店鈴木商店。その歩みと、鈴木商店を支えた神戸の女性の生き方を考察する。
- 9 プレゼンテーション発表

- 10 プレゼンテーション発表
- 11 プレゼンテーション発表
- 12 プレゼンテーション発表
- 13 映画に登場する神戸の風景
有川浩「阪急電車」における神戸ロケの意義について考察する。
- 14 神戸モダニズムの転換期
昭和40年代の神戸と阪神間文化について考察する。かつてモダンと呼ばれた文化がレトロと呼ばれるようになった時、神戸では何が起こったのか。文学作品を参考資料として考察していく。
- 15 神戸と坂の物語
神戸には、坂があるからこそ生まれた物語がある。それらを、考察していくことでまとめとする。

授業の方法

前半は講義形式となるが、後半は、各自が取材した神戸についての発表を行い、それについてのディスカッションを行う。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。出席状況（30%）、ノート評価（30%）、発表（20%）、レポート（20%）

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて随時紹介し、プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童文学	PC		17437	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子／箕野 聡子	選択	2	私立中学高等学校教員（科目「社会」）（箕野） 私立中学高等学校教員（科目「英語」）（宮副）			

授業の到達目標

初等国語の一貫として、児童文学を学ぶことにより、文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。（箕野）

すぐれた児童文学は普遍的テーマを有しており、子どもだけでなく大人にも深い感動を与えてくれる。海外の代表的な児童文学を鑑賞することにより、様々な視点から文学を読解する力を養うことを目的とする。KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、In（国際性）を養う。（宮副）

授業の概要

日本の近現代児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、発表当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。児童文学がそのような観念から脱し、子どもの世界を獲得していく様子を考察する。（箕野）
英米の児童文学の歴史を学びながら英米の代表的な児童文学作品について考察する。また英米以外では、フランスの1作品を鑑賞する。（宮副）

授業計画

- 1 巖谷小波「日本昔噺其一桃太郎」
- 2 浜田広介「泣いた赤鬼」
- 3 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」
- 4 有島武郎「一房の葡萄」
- 5 与謝野晶子「きんぎょのおつかい」
- 6 岡田淳「童退治の騎士になる方法」
- 7 日本の現代児童文学について
- 8 英米の児童文学の歴史
- 9 ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』とナーサリーライム
- 10 R.L.スティーブンソン『宝島』
- 11 L.F.ボーム『オズの魔法使い』
- 12 L.M.オルコット『若草物語』
- 13 ペアトリクス・ボター『ピーターラビットのおはなし』と代表的な絵本
- 14 アントワヌ・ド・サン＝テグジュペリ『星の王子様』

15 総まとめとReview Quiz

授業の方法

講義中心の授業である。必要に応じて映像鑑賞も行う。（箕野）
演習形式の授業である。学生の担当を決めて発表、およびグループディスカッションにより授業をすすめる。（宮副）

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%で評価する。また、毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。（箕野）
平常点15%、Review Quiz 20%、発表、および提出物 30%、レポート 35%（宮副）

欠席について

規定に従う。

テキスト

随時、プリントを配布する。（箕野）
『英米児童文学のベストセラー40』成瀬俊一編著 ミネルヴァ書房、および、プリントを配布する。（宮副）

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

教員連絡先

mino@kasei.ac.jp
miyazoe@kasei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
乳幼児心理学			17445	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
長谷川 貴子	選択	2	公認心理師、臨床心理士			

授業の到達目標

乳幼児期の運動・知覚・認知・知性・言葉・社会性・遊びの発達について学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

新生児や乳幼児が獲得する能力の豊かさと多様性についての知識を深めるとともに、保育場面においてそれらを育み、促進する大人の関わりについて検討する。

授業計画

- 1 はじめに：乳幼児心理学とは
- 2 胎児の発達
- 3 身体・運動機能の発達
- 4 知覚の発達
- 5 認知・思考の発達
- 6 情緒の発達
- 7 ことばの発達
- 8 自己の発達
- 9 親子関係の形成と発達Ⅰ：錯覚から脱錯覚へ
- 10 親子関係の形成と発達Ⅱ：愛着
- 11 社会性・道徳性の発達
- 12 子育て・親としての成長と支援
- 13 乳幼児虐待
- 14 発達の偏りと支援
- 15 まとめ

授業の方法

講義とグループワークを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

定期試験、小レポート、出席

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

適宜配布する